

昭和									年月日	略歴	摘要
19	19	19	19	19	19	19	19	19			
10	8	8	8	7	6	6	6	6			
10	6	5	1	1	30	25	26	24			
昭和一九九年軍令陸甲第六九号に依り編成下令。 船参編第一三〇号により特設船舶工兵第二六連隊を基幹として和歌山に於て編成完結。 和歌山港出発。 門司港着。 門司港上陸、下関着。 門司港出発。同日台湾軍司令官の指揮下に入る。 那覇港上陸、第三二軍司令官の指揮下に入る。 南西諸島、沖縄本島に在りて揚搭作業および沖縄本島周辺の海上局地輸送並に警備に従事す。 南西諸島空襲戦参加。											

0782

至自					
20	20	20		20	19
9	9	6 3		2	10
2	2	2020		11	31
第一一船舶団長の指揮下に入る。 第七船舶輸送司令官の隷下に入る。 沖繩本島に在りて海上局地輸送並警備に従事。 天合作戦に参加。 沖繩に於て終戦。 終戦に伴い戦行動停止、爾後生存者は所在の地点で武装解除された後米軍収容所に入る。 部隊長 少佐 佐藤 小十郎					

0783

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

船舶工兵第二八連隊 (暁第一六七七七部隊)									年 月 日	略 歴	摘 要
昭 19	19	19	19	19	19	20	21	21			
8	8	9	9	11	9	2	3	3	11		
16	20	5	6	上旬	2	1	7	上旬			
軍令陸甲第九〇号に依り独立工兵第五四大隊を基幹として広島県江田島町幸ノ浦に於て編成完結。	幸ノ浦出発。	高雄上陸。	淡水着。台湾周辺海域に於て「み」号作戦に参加す。	集成一ケ中隊(約三〇〇名)を比島に派遣す。	淡水に於て終戦。	基隆出発。	鹿兒島上陸。復員。	比島派遣隊の行動	「レイテ」作戦参加のため各中隊より人員を差出し集成一ケ中隊(約三〇〇名)		

0785

	20	19	19
	9	11	11
	2	下旬	
部隊長 中佐 井上 温	米軍収容所に入る。 停戦に伴い戦斗行動を停止し生存者は所在の地点に於て武装解除を受けたる後 比島に於て終戦。	主力は「レイテ」島に上陸、同方面の戦斗に参加し全滅す。なお上陸の際海没せる一部のものは駆逐艦に救助せられて一二月中旬高雄に上陸。「ゐ」号作戦に参加す。 「マスバテ」島に上陸。同地の戦斗に参加。	を編成す。集成中隊は高山中尉の指揮を以て淡水出発。 基隆經由、高雄着、星兵団に配属せられ高雄出発。 一部（約五〇名）は「マニラ」に上陸。同地に於て船舶工兵第二四連隊に配属せられ、「ボソボソ」附近の戦斗に参加。（生存者数名）一部（約四ケ分隊）は、

0786

昭和											年月日	略歴	摘要
20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19			
5	2	2	2	2	2	1	1	8	8	7			
15	25	20	15	7	6	31	13	18	16	21			
支那軍に隷属、一部船舶工兵第三四連隊に転属。 江蘇省鎮江県鎮江に移動集結。 大陸輸送により南京到着。 第二船舶輸送隊の編成に入り、第一船舶輸送司令官の隷下に入る。 釜山港上陸。 門司港出発。 派遣のため沼津市出発。 出動下令。 静岡県沼津市に於て編成完結。 編成着手。 軍令陸甲第九〇号に依り宮城県石巻市船舶工兵第一連隊補充隊に於て編成下令。													

船舶工兵第二九連隊

(暁第一六七五八部隊)

略歴

0787

21	21	20	21	21	20	20	20	20	20	20
1	1	12	6	6	11	11	9	8	7	7
26	25	15	26	10	29	1	26	15	31	31
連隊主力「肅」号作戦参加のため九江地区向け鎮江出発。 本部、各中隊の一部人員を以て船舶工兵第二九連隊留守隊を編成（長、少尉、植松竹一）教育訓練諸勤務に従事。 部隊主力は九江、留守隊は鎮江に於て停戦。 状況急変により主力は鎮江帰隊不能となる。 一部第二船舶輸送司令部に転属。 一部第六五碇泊場司令部に転属。 一部船舶工兵第三三連隊に転属。 内地復員。 内地復員。 鎮江留守隊の行動 鎮江留守隊は本隊への復帰困難のため第三師団長の指揮下に入る。 乗船のため鎮江出発。 上海に集結完了。										

0788

	21	21
	2	2
	23	21
上海港出発。 博多港上陸、復員。 部隊長 少佐 藤野政義		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

							昭	年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	20	19	19	19	19			
12	9	6	2	11	11	11	8			
	2		末	30	24		18			
五三二名内地帰還。							軍令陸甲第九〇号に依り柳井に於て編成完結。			
安平において終戦。							(イ)本部 (ロ)第一、三中隊 (ハ)材料廠			
旬完了。							第一〇方面軍に隷属。			
主力を以て澎湖島、潑刺部隊の台湾本島に対する転進突進輸送を実施し七月上							より数梯団となり門司港出発。			
し局地輸送及び逆上陸の訓練を実施す。							先発第一梯団、高雄上陸、同日台南着。			
主力を以て澎湖島、潑刺部隊の台湾本島に対する転進突進輸送を実施し七月上							台湾に全梯団集結を完了、主力は安平附近に、一部は高雄及び布袋附近に位置			
旬完了。										
安平において終戦。										
五三二名内地帰還。										

船舶工兵第三〇連隊 略歴
(暁第一六七五九部隊)

0790

船舶工兵第三二連隊 (暁第一九七七四部隊)							年月日	略歴	摘要
昭	19	19	19	19	19	19			
3	12	12	12	12	12	12			
未	21	28	16	下旬	8	4			
軍令陸甲第一四一号に依り船舶工兵第三連隊補充隊を基幹として台湾安平に於て編成完結。 第二中隊は有馬山丸に乗船、安平港出発(第一梯団) 本部、通信隊は乾瑞丸に乗船、第三中隊、材料廠は江之島丸に乗船し高雄港出発。(第二梯団) 第一中隊は高雄港出発。(第三梯団) 第二中隊「マニラ」入港。船舶工兵第二四連隊長の指揮下に入る。 第二中隊「マニラ」港に於て「マニラ」「バタン」半島間の緊急輸送の援助及び警備。 第三中隊及び材料廠は「アバリ」南方「カサブランカ」に上陸。 同地に於て揚陸作業に従事す。									

0792

至自		至自		至自		至自		至自		至自	
20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19
5	6 3	3 3	3	3	3 2	1	2 1	12	12	12	12
28	8 23	23 12	8	8	8 下旬	29	28 下旬	28	25	24	24
連隊本部及び通信隊は「ダリガオ」沖に於て海没。 本部、通信隊の残部は「北サンフェルナンド」に上陸。 同地に於て揚陸作業及び警備と戦斗に従事す。 第一中隊、北「サンフェルナンド」上陸、以後連隊主力と行動を共にす。 第二中隊は「マニラ」東方の「バシブ」市に移駐。 本部、通信隊は軍令に依り北進開始。 第二中隊は「ラグナ」湖東南岸「モロン」市に移駐、附近に陣地を構築す。 第二中隊は「ボンボン」に集結。 本部、通信隊、第三中隊及び材料廠は「アバリ」南方「カダラン」に於て合流し揚陸作業に従事す。 第二中隊は「アンチボーロ」附近の敵陣地に斬込を敢行し中隊長以下四〇名戦死。 第二中隊「ボンボン」附近に於ける戦斗に参加。 本部、通信隊、第三中隊、材料廠の全力は軍令により「バラナン」に南下を開											

0793

	20	20	20	20
	9	9	6	6
	2	2	10	8
第二中隊は「ボソボソ」附近を撤退し「ラグナ」湖西岸「ルンバン」附近に向 う。 第二中隊は「レナチエン」河ルソン島（東海岸）に上陸。 「ヒヨドリ」附近に於て交戦。 第二中隊は「ラグナ」湖南方「バレテ」に於て終戦。 本部、通信隊、第三中隊、材料廠は「バラナン」に於て終戦。 停戦に伴い戦斗行動を停止し生存者は所在の地点に於て武装解除を受けた後米 軍収容所に入る。 部隊長 中佐 大村 靖雄				始す。

昭										年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	20	20	20	19	19			
2	2	2	2	1	1	1	1	12	12			
20	10	6	3	30	28	24	20	30	20			
特設船舶工兵第三三連隊として徳島県勝浦郡小松島町に於て仮編成完結。 連隊長、少佐 土屋一男、和歌山船舶工兵第九連隊補充隊教育隊より着任す。 小松島港出発。 門司港出発。同日釜山上陸。 鮮満国境通過。 満支国境通過。 上海着。 軍令陸甲第一九号に依り船舶工兵第三三連隊の編成下令せらる。 中支江蘇省上海昭和島第二船舶輸送司令部跡兵舎に移駐す。 二船司作命甲第七七号に依り第二中隊長、坂田中尉以下一二〇名「大発一〇隻」を海軍搭載作業協力の為舟山群島方面に派遣す。												

0795

20	20	20	20	20	20	20
6	5	5	4	4	3	2
21	8	4	29	1	2	28
軍令陸甲第一九号に依り上海に於て船舶工兵三三連隊編成完結。 三ヶ中隊及び材料廠。大発動艇六〇隻。 二船司作命甲第八〇号に依り第一中隊長、但馬中尉以下三五〇名「大発一七隻」を江蘇省蘇州に分遣す。 在中支壯丁昭和二〇年度現役兵として一九五名入營す。 二船司作命甲第一六九号に依り連隊長以下第二、第三中隊主力「大発二五隻」を以て温州梨岡旅団撤収に伴う重火器及び軍需品の温州―寧波間の海上輸送を実施す。 海軍揚搭作業協力の為、第一中隊山本少尉以下二一名「大発二隻」を揚子江余山に派遣す。 二船司作命甲第一七五号に依り第一中隊大発五隻を以て蘇州に於て第六〇師団軍需品輸送を実施す。 二船司作命甲第二五六号に依り材料廠長宮坂少尉以下一〇一名「大発八隻」を守部隊研究演習の為杭州湾乍浦鎮に派遣す。						

0796

20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
12	9	9	8	8	8	7	7	7	7
10	16	2	20	14	7	26	23	11	10
二船司作命甲第二六九号に依り新たに連絡艇隊三ヶ中隊を編成し教育を開始す。 二船司作命甲第二七五号に依り第三中隊山中少尉以下二〇名「大発二隻」を第一三軍江岸偵察の為。崇明島―福山附近に派遣す。 第二中隊長坂田中尉以下二〇四名「大発二〇隻」を九江に派遣し第三四、第四〇、第五七師団、鮠、極兵団の揚子江、潘陽湖渡河作戦に協力す。 連隊は二船司作命甲第二九〇号に依り江蘇省蘇州砲艇隊兵舎に移駐す。 第三中隊長 高下中尉以下二三〇名「大発二〇隻」を安慶湖口に派遣し、鯨兵団其の他の揚子江潘陽湖渡河作戦に協力す。 肅号作戦参加の為第一中隊長 但馬中尉以下一五〇名「大発一五隻」を鎮江に派遣す。 連隊は水路上海昭和島田兵舎に移駐し兵器、軍需品の接收を開始す。 上海に於て終戦。 中国側の命に依り吳淞地区集中營兵舎に移駐す。 肅号作戦参加中の在鎮江第一中隊長 但馬大尉以下一五〇名原隊に復帰す。									

0797

	21	21	21	21	21	21	21	21	21
	3	3	3	2	2	2	1	1	1
	18	15	4	29	8	5	17	16	5
第一次復員部隊、第三中隊、片桐中尉以下二九九名復員の為上海港出発。 佐世保港上陸同日復員。									
肅号作戦参加中の在南京第二中隊長坂田大尉以下二七二名原隊復帰す。									
第二次復員部隊第一中隊長 但馬大尉以下三一三名復員の為上海港出発。 博多港上陸同日復員。									
第三次復員部隊宮下少尉以下六名(学徒) 上海港出発。 博多港上陸、同日復員。									
第四次復員部隊連隊長 土屋少佐以下四九四名上海港出発。 佐世保上陸、同日復員。									
部隊長									
少佐 土屋 一男									

0798.

昭和										年 月 日	船 舶 工 兵 第 三 四 連 隊 (暁第一九八二部隊)	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20				
2	2	2	1	1	1	1	1	1	1				
10	7	1	26	20	19	18	12	10	5				
特設船舶工兵第三四連隊塩釜に於て仮編成。 塩釜出発。 広島県幸ノ浦に集結。 南支派遣を命ぜられ主力幸ノ浦より銀山丸に乗船出発。 門司港着。 モスロ一船団の各船に分乗す。 門司港出発。汕頭に向け前進。 第一中隊主力乗船の梅川丸汕頭に到着。第一中隊は直ちに下船しモスロ一船団の揚陸並に局地輸送に任ず。 主力汕頭到着。モスロ一船団の揚陸並に局地輸送に任ず。 第一中隊の一部飯塚少尉以下六九名乗船の万成丸黄溜に於て遭難、舟艇一隻流													

0799

至自												
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
12	12	9	9	5	4	4	3	3	3	3	3	2
27	19	11	2	15	6	1	26	25	2012	7	2	13
失、生死不明者なし。主力は潮海兵団の資材輸送並に局地輸送に任ず。 部隊最後尾船万成丸到着。汕頭に部隊集結完了。 軍令陸甲第二〇号により船舶工兵第三四連隊汕頭に於て編成完結。 光一号作戦に伴う局地輸送及び光船団の揚陸作業に任ず。 潮兵団被雷、部隊の配置替輸送及び水路調査に任ず。 二船司南支支部長の命に依り南支沿岸の局地輸送に任ず。 沿岸輸送準備特に戒克船の偽装を実施す。 九竜地区軍属二〇名初年兵として現地入隊。 九竜南支支部に教育を依託す。 より終戦迄汕頭に在りて汕頭―香港―汕頭―汕尾間の輸送に従事す。 船工二九連隊山本隊長の指揮下に入り九竜方面の局地輸送に任ず。 南支に於て終戦、 深川渉収容所に入所す。 第一次還送者として長尾大尉以下三六〇名香港出発。 鹿児島港上陸、復員。												

0800

0800

昭 20						年 月 日	船舶工兵第三四連隊第二中隊 略 歴 (暁第一九八一部隊)
20	20	20	20	20	20		
5	4	2	2	1	1		
15	1	13	2	21	15	10	略 歴
船舶工兵第二九連隊、南支転進の為、連隊本部（通信班、衛生部、経理部を含む）の一部、第一乃至第三中隊の各一ケ小隊及び材料廠の一部長以下一九九名を以て先遣隊を編成す。 先遣隊、静岡県沼津市を出発。 門司港出発。 九龍上陸在九龍第二船舶輸送司令部南支支部長の指揮下に入る。 香港占領地新界地区大捕に移駐、連隊主力の到着を待ちつゝ設営準備を為すと共に、舟艇「大発」に依る局地輸送に任ず。 船舶工兵第三四連隊要員として、昭和二〇年度、徴集現役兵四九名、現地入隊す。 船舶工兵第二九連隊主力は「上海」に在りて、第二船舶輸送司令部上海支部長							
							摘 要

0802

	20	20	20	20	20	20	20		20	20
	9	9	8	8	8	8	8		8	8
	4	2	31	29	23	20	18		15	1
の指揮下に入り、中支方面の局地輸送に任じ、南支移駐不能に付き、先遣隊は、在、汕頭船舶工兵第三四連隊に転属され、第二中隊を編成す。 第三水上特別攻撃隊要員として鈴木少尉以下四七名転出す。 停戦、爾後、在仙頭連隊主力並に第二中隊は、香港移駐を命ぜられ、第二中隊は香港島鯉魚門に移駐を開始すると共に香港防衛隊の指揮下に在りて艀輸送を実施す。 復員下令。 四月一日現地入隊者除隊。 第三水上特別攻撃隊の編成を解かれ鈴木少尉以下四七名中隊に復帰す。 連隊主力先発艇隊香港到着、鯉魚門に入る。 第一三〇師団へ配属の為、第二中隊主力九龍向け出発す。 第一三〇師団司令部所在地広東省番禺沙湾到着。 第一三〇師団、針ヶ谷支隊集結輸送の為、中山県中山に到着、爾後、寄奇、大良「順徳」に移駐しつつ同師団大良集結の水路輸送に従事す。										

0803

		21	21	21	20	20
		6	4	4	11	11
		4	17	10	7	3
任務終了后、南支支部集中管広東省番禺黄埔「長洲島」に到着、南支支部長の指揮下に復帰。乗船待機の為集中管に入る。 中国側へ舟艇「大発」譲渡の為、鈴木少尉以下三名広東市新墳地に赴き、舟艇移譲後も引続き舟艇乗組員として中国側に服務す。 内地帰還の為集中管出発乗船。 浦賀港入港、「コレラ」患者発生の為、船内隔離。 浦賀上陸、復員。						
中隊長	中尉	山本精一	部隊長	少佐	長尾昇	

昭								年 月 日	略 歴	摘要
20	20	20	20	20	20	20	20			
10	10	10	9	3	2	2	2			
17	16	16	2	1	28	20	20			
部隊長 少佐 安達守康										
復員。 仙崎港上陸。 釜山港出発。 木浦に於て終戦。 駐屯地木浦着。 釜山上陸。 軍令陸甲第二〇号により広島県小松島に於て編成完結。										

船舶工兵第三六連隊 略歴

(晩第一九八一三部隊)

0805

年 月 日	略	略
昭 20 9 9 5 2 8	軍令陸甲第四三号により和歌山に於て編成完結。 仙崎に於て終戦。 軍令陸甲第一一六号により復員下令。 復員完結。 部隊長 少佐 草木 英一	船舶工兵第三七連隊 (暁第一九八二三部隊)
		摘要

0806

昭					年 月 日	船舶工兵三八連隊 (既第一九八二三部隊)	略 歴	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20					
9	9	5	5	4					
15	2	2	1	8					
軍令陸甲第四三号に依り柳井に於いて編成完結。 博多港出発。 釜山着。 釜山に於て終戦。 復員完結。 部隊長 少佐 嶋田勝二									

0807

至自											昭	年 月 日	船舶工兵第五七連隊 （暁第六一五五部隊） 略歴
19	19	19	19	1919	19	19	19	19	19	19			
9	8	8	7	104	4	4	3	3	3	2			
9	24	21	16	3120	20	13	18	13	1	25	軍令陸甲第一〇六号により海上機動第三旅団輸送隊臨時編成下令。 柳井に於て編成完結。 屯営出発。 小樽港に集結。 小樽港出発。 北千島幌筵島に着。 北東第一期作戦参加。 温彌古丹島大泊に上陸。 大泊に於て対空戦斗に参加。 幌筵島加熊別に向け前進、同日上陸。 柏原に向け前進、着。		
											摘要		

至自					
20	20	2019	20	20	20
9	9	811	6	5	5
	2	141	15	17	7
復員。 函館に於て終戦。 北東第二期作戦参加。 船舶工兵第五七連隊と称号変更。 函館に上陸。 柏原出発。 部隊長 中佐 山崎 策郎					

0809

船舶工兵第五八連隊 (暁第六一七五部隊)	年 月 日	昭和20	20
		6	8
		15	15
	略 <		

0810

昭和										年月日	略歴	摘要
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19			
7	6	6	5	5	5	5	5	4	4			
2	27	25	23	5	4	2	1	27	25			
「サンダカン」上陸。 「ミリ」港出発。 ネオ「ミリ」港上陸。山室軍曹以下四名は大発宰領の為昭南に出張。 離作命甲第四一号に依り「ボルネオ」守備軍司令官の指揮に入り同日、「ボルネオ」港出発。 宇品港出発。 宇品着。 舟艇廻航を中止し、横浜港出発。 横浜着。 舟艇回航のため石巻港出発。 船舶命甲第三五号に依り第二九軍の戦斗序列に編入。 官城県石巻市東部第九〇部隊に於て編成完結。												

独立船舶工兵第一中隊
(暁第一六七四部隊)

略歴

0811

20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19
9	3	1	1	12	10	10	10	8	8	8	8
2	14	30	1	17	18	14	1	26	26	21	2
皆川兵長以下二名は昭南より木大発三隻を宰領し「アビ」着。 第一次舟艇廻航艇隊（前田中尉以下二五名）「アビ」出発。 第一次舟艇廻航艇隊「サンダカン」着。 「サンダカン」出発。材料小隊主力を部隊舟艇の整備及び修理のため同地に残置。 「タワオ」泉「イマム」着。 山室軍曹以下二名は昭南第二野戦船舶廠より、受領の木大発一〇隻を宰領し、「ミリ」着。 第二次舟艇廻航艇隊（前田中尉以下五九名）「ミリ」出発。 第二次舟艇廻航艇隊「タワオ」着。 離作命甲第一一九号に依り、第三七軍司令官の隷下に入る。 第一、第二兵站線転進部隊の水路、海上輸送に任ず。 北「ボルネオ」に於ける邀撃作戦参加。 北「ボルネオ」に於て終戦。											

0812

122~2

		21	21	21	20	20
		4	4	4	10	10
		25	24	14	25	21
		復員。	大竹港上陸。	「アビ」出発。	「アビ」収容所着。	収容所集合のため「タワオ」出発。
	部隊長					
	少佐					
	古田勝晴					

0813

昭和							年 月 日	略 歴	摘 要
21	20	20	19	19	19	19			
5	9	7	6	6	5	4			
23	2	15		29	29	25			
昭一八年軍令陸甲第一〇六号により和歌山に於て編成完結。 門司港出発。同日第二九軍司令官の隷下に入る。 「昭南」上陸。 「マライ」水域船舶作戦に参加。 印度支那に転進爾後「メコン」河水路作戦に参加。 西貢に於て終戦。 内地復員。									
部隊長 少佐 三木 颯夫									

独立船舶工兵第二中隊

略歴

(準第二二一〇一部隊)

0814

昭										年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	19	19	19	19	19	19	19	19			
8	8	6	6	6	6	6	6	6	5			
27	15	29	25	23	18	14	10	3	29	25	独立船舶工兵第三中隊 (既第一六七一五部隊)	略 歴
昭南港出発。	「スマトラ」に於て停戦。	昭南港着。	「ミリー」港出発。	「ミリー」着。	「マニラ」出発。	「マニラ」着。	高雄出発。	高雄着。	門司港出発。	軍令陸甲第一〇六号に依り山口県柳井に於て編成完結。		

0815

	21	21	20	20	20
	7	6	12	12	11
	2	30	27	23	6
大尉 福島 進	復員。	大竹上陸。	馬來「レンバン」島着。	「ナンカウリ」島出発。	ニコバル諸島「ナンカウリ」島着。
部隊長					

0816

昭和				年月日	略歴	摘要
20	19	19	18			
1	12	10	10			
下旬	中旬	20	30			
米軍「カモテス」島に上陸開始、部隊所有の全艇損傷し、「セブ」島残留部隊との連絡も不可能となる。 地掃蕩作業実施。 隊長以下約一〇〇〇名は「セブ」島より「カモテス」島に転進、米軍魚雷艇基地掃蕩作業実施。 「カモテス」諸島（「ボロ」島、「バリジヤン」島）方面の行動 各島相互間の作戦輸送に従事、 「セブ」市北方「リロアン」に位置し、南方地域の船舶諸隊への補充のための教育隊として教育任務、戦況の推移に伴い教育と作戦を併行す。 米軍「レイテ」島「タクロバン」附近に上陸開始、部隊は主力をもつて「レイテ」作戦輸送を、一部を以て比島中部（ビサヤ地区）、南部（ミンダナオ地区）各島相互間の作戦輸送に従事、 軍令陸甲第八九号に依り比島「セブ」において編成完結。						

船舶工兵第一野戦補充隊

(既第六一四二部隊)

略歴

0817

至自					
20	20	20	19	19	20
7	6	3 2	12	12	1
	末	7 9	20	7	29
零時を期し、隊長以下斬込を実施、其の大部は戦死す。 「レイテ」島方面の行動 各中隊混成の約四〇〇名は松井少佐を長として「レイテ」島「オルモック」に派遣せられ船舶工兵第二連隊長の指揮を受け、揚陸作業に従事。 米軍「オルモック」湾に侵入上陸開始、水際陣地の戦斗より夕刻中央山脈「リボンガオ」附近に転進。 戦況持久戦となり戦線を「パレンシヤ」―「マニラフオン」―「ロモノン」方面に移動。 米軍第三次揚陸を「チブル」に迎へ戦斗、軍命令により「カンギボット」山周辺に集結、自治自戦態勢に入る。 大規模な攻撃に対し反撃を実施、 消息全く不明となり終戦に至る。 「セブ」島方面の行動。 「セブ」島残留隊は「リロアン」附近にあつて前任務を続行す。					

0818

20	20	20	20	20
9	8	4	3	1
2	20	10	26	下旬
以降、米軍攻撃熾烈となり所有舟艇、殆んど大破、残留隊長伊場太尉以下約一五〇〇名は「セブ」島防衛司令官の指揮下に入り伊場大隊を編成。米軍「セブ」市南方「タリサイ」附近より上陸開始、四月上旬頃まで迎撃戦を展開。 以降「セブ」島北部へ転進開始。 「セブ」島北部五〇〇高地附近に逐次集結。 五〇〇高地附近で停戦を知る。玉兵団長（第一師団）の命令に依り下山、武装解除を受く。 該部隊の特性上作戦輸送の为一艇隊（三〜四隻）となり比島中南部各島相互間の輸送の為各方面に派遣せられたものが多数ある。 「セブ」島「レイテ」島、「ネグロス」島、「バナイ」島、「ミンダナオ」島等に於て終戦。終戦に伴い戦斗行動停止し以後生存者は所在の地点において武装解除された後、米軍収容所に入る。				
部隊長 中佐 鬼頭将方				

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

建築勤務才三八中隊
略歴

(昭和四八三〇部隊)

昭 16										年 月 日	略 歴	摘 要
17												
8	8	6	6	12		10	9	9	9			
6	2	17	8	8		9	26	22	15			
高雄着同地駐留 「マニラ」発 「マニラ」着上陸駐留 高雄発 高雄にありて大東亜戦争に伴う船舶輸送業務に参加 ため同地駐留 高雄着船舶輸送司令部高雄支部に配属せられ「あ」号作戦準備の 東京発 令第五四四号により船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる 水戸市留守第五一師団において臨時編成完結、昭和一六年大陸 臨時編成下令												

建築勤務才三八中隊
(暁才四八三〇部隊)
略歴

			18
		5	11 11
		20	26 12
高雄発 宇品着上陸 宇品において昭和一八年軍令陸甲第三四号により復帰、第三および第四野戦船舶廠に編入せしめらる 部隊長 中尉 小堀 史郎			

0822

昭								年 月 日	略 歴 摘 要	建 築 勤 務 第 五 〇 中 隊 (既第八二三三部隊)	略 歴
17	16	16	16	16	16	16	16				
1	12	11	11	9	9	7	7				
1	22		20		18		13				
臨時編成下令。 第五三師団において臨時編成完結。 大陸命第五四四号を以つて船舶輸送司令官の隷下に入らしめらる。 台湾の高雄に到り大東亜戦争のための準備に任ず。 大陸指第一〇二一号に基く船舶輸送司令官の命令により第一揚陸団長指揮の下に第一四軍司令官の指揮下に入らしめらる。 高雄において乗船出発。大東亜戦争参加のため征途につく。 比島「リンガエン」湾上陸。 爾後、同地に位置す。 船舶輸送司令官の命令により第四八師団長の指揮下に入り「ジャワ」上陸作戦準備態勢に入る。											

0823

	17	17	17
	12	3	2
	25	1	8
「リングエン」湾を出発。 「ジャワ」島「スラバヤ」地区の「クルガン」に上陸し、爾後「スラバヤ」方面に行動す。 昭南に到り復帰し、昭和一七年軍令陸甲第一〇〇号により第七揚陸隊に編入せらる。 中隊長 中尉 近藤 勝			

0824

19	18	18	18	18	17	17		17	17	17	17	17	17
5	11	10	10	5	3	3		3	2	2	1	1	1
7	6	31	20	20	25	18		1		20	23	17	7
シボルガ出発。	スマトラ、シボルガ到着。	スマトラ、ペラワン上陸。	蘭貢出発。	大陸命第七八五号により第三船舶輸送隊の編成に入る。	ビルマ蘭貢上陸。	昭南出港。	(一ヶ小隊は二月十五日到着)	シンガポール到着。	昭南に転移す。	シンゴラ出発。	シンゴラ上陸。	カムラン湾出発。	仏印カムラン湾集結。

0826

			20	20	20	19	19	19	19	19	19
			2	1	1	12	12	8	8	8	6
			1	5	3	20	1	23	21	10	2
			14								
			ペンガリス到着。								
			昭南上陸。								
			昭南出発。								
			宇賀丸沈没。								
			マニラ上陸。								
			マニラ出発、同日バタンガス到着。								
			バタンガス出発。								
			マニラ到着。								
			モンタルバン、ワワ地区到着。								
			第五野戦船舶廠、マニラ支廠（桑野部隊）と合流、小林兵団の指揮下に入る。								
			大陸命第一二四〇号により第一四方面軍の戦斗序列に入る。								
			部隊長								
			初代 中尉 倉本 四方一								
			二代 大尉 佐伯 勇								

昭和							年 月 日	略 歴	略 歴
18	18	16	16	16	16				
6	4	9	9	7	7				
20						13			
動員下令。 大村市第五六師団において臨時編成完結。 内地出発。 西貢に到る。 爾後西貢にあつて大東亜戦争に参加す。 西貢出発。西部「ニューギニア」の「ホーランジャ」に到る。 「ホーランジャ」において復帰し、昭和一八年軍令陸甲第二八号により第九揚陸隊に編入せらる。 中隊長 中尉 播摩 正一									
								摘 要	

0828